

## 和算における利息算(Ⅱ)

野 沢 孝 之 助

## ま え が き

<sup>1)</sup>前稿執筆後に、10種の和算書を入手した。本論文は、このうち次の4種に関して論述しようとするものである。

著者不詳：諸商売改算 智恵車大全 安政4年(1857年)再版、菊屋七郎衛 <sup>2)</sup>発行。

岩田清庸：諸流全伝 算法利足速成 卷之一、卷之四 安政3年(1856年)。<sup>3)</sup>

著者不詳：利割早算 年賦成崩算法 表紙を欠くので、発行年も不詳。<sup>4)</sup>

// : 納崩算法記・貸附米銀利足算 写本、発行年も不詳。<sup>4)</sup>

## 1

(問題はできるだけ原文どおり、解答は現代風に示す。)

1. 銀2貫500目を日廻し3厘——元銀100匁に付1日に銀3厘の利なり——にして2か月13日貸、此利銀を問。 答 利銀 54匁7分5厘。

$$\frac{2,500}{100} \times 0.03 \times (30 \times 2 + 13) = 54.75$$

2. 講銀毎月350匁づつ25か月掛置満会にいたる。月8朱の利にして掛銀高及び利銀を問。

答 掛銀高 8貫750匁。利銀 910匁。

$$\begin{aligned} 350 \times 25 &= 8,750 \\ 350 \times \{(0.008 \times 25) + (0.008 \times 24) + \dots + (0.008 \times 1)\} \\ &= 350 \times 0.008 \times \frac{25 \times (25+1)}{2} = 910 \end{aligned}$$

以上、「算法利足速成」卷之一(通用利足本法)。

3. 銀500目貸し、2年目に元利合て661.25匁となる時は、此利1か月何歩に当るか問。但し利

は1年の利に利を加える。 答 1分2半。

$$500 \times (1 + 12i)^2 = 661.25 \quad i \text{ は月利率}$$

$$\left\{ \sqrt{\frac{661.25}{500}} - 1 \right\} \div 12 = 0.0125$$

以上、「智恵車大全」 49丁。

2

「算法利足速成」巻之一、巻之四には、福田理軒(1815~1889)の「利足捷表」が掲げられている。

本表は年金現価率  $a_{\overline{n}|i} = \frac{1 - (1+i)^{-n}}{i}$  を計算した数表で、内容は次のようである。

$i$  ……利率  $n$  ……期数

巻	$i$ (刻み) %	$n$ (刻み)	桁数 (小数)	丁数 <sup>5)</sup>
一	0.05(0.05)1.00	1(1)80	9	20
四	10.1(0.1)15.0	1(1)80	9	50

未見の巻之二、巻之三の内容は、どこまでも推定であるが、次のようではなかろうか。

巻	$i$ (刻み) %	$n$ (刻み)	桁数 (小数)	丁数
二	1.1(0.1)5.5	1(1)80	9	45
三	5.6(0.1)10.0	1(1)80	9	45

現代における代表的な金利計算表である Malta<sup>6)</sup> 表と Gushee<sup>7)</sup> 表の内容は、次表のようである。

表別	$i$ (刻み) %	$n$ (刻み)	桁数 (小数)
Malta	0.05(0.05; 0.125)10	1(1)120	8
	10.125(0.125)20	1(1)50	
Gushee	$\frac{1}{12} \left( \frac{1}{48} \right) \frac{1}{2} \left( \frac{1}{96} \right) \frac{5}{6}$	1(1)360	10
	$\frac{27}{32} \left( \frac{1}{48}; \frac{1}{96} \right) 1 \frac{1}{4}$	1(1)240	
	$1 \frac{1}{4} \left( \frac{1}{32} \right) 2 \left( \frac{1}{16} \right) 3 \frac{3}{4}$		
	$3 \frac{7}{8} \left( \frac{1}{8} \right) 5$		
	$5 \left( \frac{1}{8} \right) 7 \frac{1}{2} \left( \frac{1}{4} \right) 8$	1(1)120	
	$8 \frac{1}{2} \left( \frac{1}{2} \right) 10$		
	11(1)25	1(1)60	
	30(5)60(10)100; 75	1(1)10	

表別	本 表	Malta (1.00% Gushee)	検 算
$\begin{matrix} i \\ n \end{matrix}$	0.05%	0.05%	0.05%
10	9.9725 5491 1	9.9725 5491	9.9725 5491 1
20	19.8953 8389 6	19.8953 8390	19.8953 8389 6
30	29.7687 3491 2	29.7687 3490	29.7687 3490 2
40	39.5928 5465 1	39.5928 5464	39.5928 5464 1
50	49.3679 8860 4	49.3679 8859	49.3679 8859 4
60	59.0943 8102 6	59.0943 8102	59.0943 8101 6
70	68.7722 7495 7	68.7722 7495	68.7722 7494 7
80	78.4019 1222 4	78.4019 1221	78.4019 1221 4
$\begin{matrix} i \\ n \end{matrix}$	0.10%	0.10%	0.10%
10	9.9452 1928 7	9.9452 1929	9.9452 1928 7
20	19.7915 3118 7	19.7915 3119	19.7915 3118 7
30	29.5399 1935 7	29.5399 1936	29.5399 1935 7
40	39.1913 5766 8	39.1913 5767	39.1913 5766 8
50	48.7468 1030 9	48.7468 1031	48.7468 1030 9
60	58.2072 3187 8	58.2072 3188	58.2072 3187 8
70	67.5735 6747 9	67.5735 6748	67.5735 6748 0
80	76.8467 5282 0	76.8467 5282	76.8467 5282 0
$\begin{matrix} i \\ n \end{matrix}$	0.55%	0.55%	0.55%
10	9.7040 3784 9	9.7040 3785	9.7040 3784 9
20	18.8901 4977 0	18.8901 4977	18.8901 4977 0
30	27.5859 7861 3	27.5859 7861	27.5859 7861 3
40	35.8176 9186 9	35.8176 9187	35.8176 9186 9
50	43.6100 6041 1	43.6100 6041	43.6100 6041 1
60	50.9865 3303 8	50.9865 3304	50.9865 3303 8
70	57.9693 0703 1	57.9693 0703	57.9693 0703 1
80	64.5793 9495 8	64.5793 9496	64.5793 9495 8
$\begin{matrix} i \\ n \end{matrix}$	1.00%	1.00%	1.00%
10	9.4713 0453 1	9.4713 0453 07	9.4713 0453 07
20	18.0455 5296 6	18.0455 5296 63	18.0455 5296 63
30	25.8077 0822 1	25.8077 0822 13	25.8077 0822 13
40	32.8346 8611 4	32.8346 8611 40	32.8346 8611 40
50	39.1961 1753 1	39.1961 1753 11	39.1961 1753 11
60	44.9550 3840 6	44.9550 3840 62	44.9550 3840 62
70	50.1685 1434 8	50.1685 1434 76	50.1685 1434 76
80	54.8882 0610 6	54.8882 0610 59	54.8882 0610 59

注. アンダーラインは、誤りを示す。

表別	本 表	Gushee	検 算
$i$ $n$	10.1%	10.1%	10.1%
10	6.1182 5929 1	/	6.1182 5929 1
20	8.4557 7581 0		8.4557 7581 0
30	9.3488 3758 1		9.3488 3758 1
40	9.6900 3702 1		9.6900 3702 1
50	9.8203 9424 9		9.8203 9424 9
60	9.8701 9798 6		9.8701 9798 6
70	9.8892 2579 3		9.8892 2579 3
80	9.8964 9547 8		9.8964 9547 8
$i$ $n$	10.2%	10.2%	10.2%
10	6.0921 2741 <u>7</u>	/	6.0921 2741 8
20	8.3986 2515 <u>4</u>		8.3986 2515 5
30	9.2718 7212 <u>5</u>		9.2718 7212 6
40	9.6024 8605 <u>1</u>		9.6024 8605 2
50	9.7276 5747 <u>6</u>		9.7276 5747 7
60	9.7750 4779 <u>4</u>		9.7750 4775 4
70	9.7929 8985 6		9.7929 8985 6
80	9.7997 8278 <u>8</u>		9.7997 8278 9
$i$ $n$	14.9%	14.9%	14.9%
10	5.0379 5668 4	/	5.0379 5668 4
20	6.2941 4324 <u>4</u>		6.2941 4324 3
30	6.6073 6639 5		6.6073 6639 5
40	6.6854 6685 1		6.6854 6685 1
50	6.7049 4076 <u>7</u>		6.7049 4076 6
60	6.7097 9648 <u>0</u>		6.7097 9647 9
70	6.7110 0713 <u>8</u>		6.7110 0722 4
80	6.7113 0909 <u>5</u>		6.7113 0911 7
$i$ $n$	15.0%	15.0%	15.0%
10	5.0187 686 <u>7</u> 6	5.0187 6862 59	5.0187 6862 59
20	6.2593 <u>2864</u> 3	6.2593 3147 37	6.2593 3147 37
30	6.5659 <u>7893</u> 7	6.5659 7963 67	6.5659 7963 67
40	6.6417 <u>7820</u> 0	6.6417 7837 28	6.6417 7837 28
50	6.6605 146 <u>1</u> 8	6.6605 1466 11	6.6605 1466 11
60	6.6651 459 <u>7</u> 4	6.6651 4598 50	6.6651 4598 50
70	6.6662 9077 <u>5</u>	—————	6.6662 9077 74
80	6.6665 7375 <u>2</u>	—————	6.6665 7375 26

注・アンダーラインは、誤りを示す。

卷之一、卷之四の利息捷表を検算したところ、誤りがあるものがある。

その一部を検算と共に示せば、7及び8ページのものである。〔検算には、電卓Sobax ICC 200 (16桁)とCasio 162F (16桁、累乗キー付)を利用した。〕

## 3

$a_{\overline{n}|}$  表で複利問題を解くには、次のように利用すればよい。すなわち、 $a_{\overline{n}|}$  表から他の5表を求めることが可能である。

$$(1+i)^n = \frac{1}{1-i \cdot a_{\overline{n}|}}$$

$$(1+i)^{-n} = 1 - i \cdot a_{\overline{n}|}$$

$$S_{\overline{n}|} = \frac{a_{\overline{n}|}}{1-i \cdot a_{\overline{n}|}} = \frac{1}{\frac{1}{a_{\overline{n}|}} - i}$$

$$(a_{\overline{n}|})^{-1} = \frac{1}{a_{\overline{n}|}}$$

$$(S_{\overline{n}|})^{-1} = \frac{1}{a_{\overline{n}|}} - i$$

なお、6表のうち  $(1+i)^{-n}$  表のみを与え、これから算出する方法は、現代の Engineering Economy の書には稀に見受けられる。しかし、 $(1+i)^{-n}$  表と  $a_{\overline{n}|}$  表のいずれを基礎とするかは、一長一短があり、いずれを便利とするかの結論は簡単には下せない。

要は約120年以前に、 $a_{\overline{n}|}$  表を用いて複利計算を行なわんとしたこと、ならびにその利率の刻みの小さいこと、期数の長いこと、多桁を計算したことは、電子計算機のない時代であることを考慮すれば、非常に高く評価されて然るべきであると思ひ紹介する次第である。おしむらくは、計算に誤謬の見受けられることである。参考に、前節において Malta 表 (Ⅱ巻1965年刊) Gushee 表 (1942年初版) と比較した所以である。しかし、Malta 表は  $(S_{\overline{n}|})^{-1}$  を除く5表、Gushee 表は6表すべてを含んでいることは便利であることはいうまでもないが、約90年以上の時の差を考慮しなければならぬ。

## 4

「利足捷表」の利用例を、「算法利足速成」から抜粋して掲げる。

注. 利率の位は、次のようである。<sup>8)</sup>

1割=10歩

1 歩(分)=10朱

1 朱=10毛

1. 元錢100貫文を月利9朱5毛にして貸置、35か月間利に利を加え積置残高を問。

答 139貫225文 余。(卷之一)

$$\begin{aligned} & 100,000 \times (1+0.0095)^{35} \\ & = 100,000 \times \frac{1}{1-0.0095 \times 29.6573 \ 6367 \ 3} \\ & = 139,226(\text{余}) \end{aligned}$$

本書には端数26.31文に定法0.96を掛けて25文余としているこれは当時の慣行によるものである。

2. 年1割2歩の利足にして5か年間、利に利を加え積置、此元利合銀2貫114匁8分1厘となる。此元銀いかほどと問。 答 元銀 1貫200目 (卷之四)

$$\begin{aligned} & 2,114.81 \times (1+0.12)^{-5} \\ & = 2,114.81 \times (1-0.12 \times 3.6047 \ 7620 \ 2) \\ & = 1,200 \end{aligned}$$

3. 金1,000兩借たるに、毎年利金を元金に直し書替る処、10か年目に至りて元金合金1,343兩3歩永166文余来る。此利年何歩に当ると問。 答 年利3歩。(卷之四)

$$1,000 \times (1+i)^{10} = 1,343 \frac{3}{4} + 0.166 = 1,343.916$$

$$(1+i)^{-10} = \frac{1,000}{1,343.916} = 0.7440 \ 9412$$

$$1 - i \cdot a_{\overline{10}|} = 0.7440 \ 9412$$

$$i \cdot a_{\overline{10}|} = 0.2559 \ 0588 \quad [\text{術中の数字の誤り訂正}]$$

ゆえに、表の10期の数値にその利率を掛けたものが、これに近いものをさがす。

( $a_{\overline{10}|} 2.9\%$ 、 $a_{\overline{10}|} 3\%$  は、術に掲げてある。)

$i$	$a_{\overline{10} }$	$i \cdot a_{\overline{10} }$
2.9%	8.5739 0159 2	0.2486 4315
3.0%	8.5302 0283 7	0.2559 0609

3.0%がほとんど問題と一致するので、これを答とする。

4. 銀1貫486匁6分6厘を年1割2歩の利にして貸置、年に利に利を加え元利合銀2貫620匁来る。此年数を問。 答 5か年 (卷之四)

$$(1+0.12)^{-n} = \frac{1,486.66}{2,620} = 0.5674 \ 2748 \ 1 \quad [\text{術の誤り訂正}]$$

$$\frac{1 - (1+0.12)^{-n}}{0.12} = \frac{1 - 0.5674 \ 2748 \ 1}{0.12} = 3.6047 \ 7099 \ 2 = a_{\overline{n}|} 12\%$$

表の12%を検し、この数値に近いものを求める。

4期 3.0373 4934 7

5期 3.6047 7620 2

5期がほとんど問題と一致するので、これを答とする。

5. 調達講あり。毎月銀100匁づつ掛置、60か月にして満会に相成。月利6朱5毛にして利に利を加え返銀総高を問。 答 7貫309匁5分07毛 余。(巻之一)

$$\frac{1}{a_{60|0.65\%}} - 0.0065 = \frac{1}{49.5520 1803 1} - 0.0065 = 0.0136 8081 3$$

$$100 \div 0.0136 8081 3 = 7,309.5071$$

6. 毎月金5兩づつ15か月の間渡す処毎月1分の利にして当月渡し切る其金高を問。

答 70兩と永18文517 余。(巻之一)

$$\begin{aligned} & 5 \times (a_{15|1\%} + 1) \\ &= 5 \times (13.0037 0304 2 + 1) \\ &= 70.0185 1521 \end{aligned}$$

本例の答は小差がある。

注. 本例は、期首払年金現価である。

7. 毎年銀1貫目づつ渡す。然も年限を知らず。年1割5歩の利足にして当年立切に銀7貫664匁余渡すという。其年数をと。 答 47年 なり。(巻之四)

$$1,000 \times (a_{n|15\%} + 1) = 7,664$$

$$a_{n|15\%} = 7.664 - 1 = 6.664$$

表の15%を検し、この数値に近いものをさがすと、

56期 6.6640 0698 5 [表の期数と率の誤り訂正]

とあり。

故に、57年となる。答は明らかに誤りであろう。

8. 元銀6貫目貸置、毎月銀100匁づつ72か月受領元利皆済なり。此月利を問。 答 月利 5朱1毛6658 (巻之一)

$$100a_{72|i\%} = 6,000$$

$$a_{72|i\%} = 60$$

表の72期を検し、60期に近い数値をさがすと、

0.5% 60.3395 1393 6

0.55% 59.3204 8722 7

これから、一次補間法によって、 0.5166 587%

9. 月利9朱にして元銀10貫目貸付月賦で皆済す。毎月等分の返銀を問。 答 月賦銀 216匁  
4分2厘8毛 余 (巻之一)

$$\begin{aligned}
 &10,000 \div a_{\overline{12}|0.9\%} \\
 &= 10,000 \div 46.2047\ 1193\ 8 \quad [\text{末位訂正}] \\
 &= 216.4281
 \end{aligned}$$

5

「年賦成崩算法」の数表の内容を示すと、次のようである。

種別	(刻 <sup>i</sup> み) %	(刻 <sup>n</sup> み)	桁数 (小数)
$a_{\overline{n} i}$	5 6 7.5 8(1)16 11.5 12.5 12.5 20	1(1)15	4~11
$\frac{1}{2} \cdot a_{\overline{n} \frac{j}{2}}$	上記に同じ 但し11.5を除く。	$\frac{1}{2} \left( \frac{1}{2} \right) 16$	2~12

「算法利足速成」に比較すると、誤謬も多く、利率の刻み、期数、桁数において非常に劣る。説明例も僅かに2例にすぎない。ただ、 $\frac{1}{2} \cdot a_{\overline{n}|\frac{j}{2}}$ 表において、少々特色を認められるにすぎない。

その一部を検算と共に示すと、次のようである。

表別	本表	他表	検算
$n \backslash i$	7.5%	7.5% (Gushee)	7.5%
5	4.0458 8490 <u>1</u>	4.0458 8490 20	4.0458 8490 1999
10	6.8640 8095 <u>516</u>	6.8640 8095 60	6.8640 8095 5981
15	8.8271 1974 <u>444</u>	8.8271 1974 50	8.8271 1974 5037
$n \backslash i$	17.5%	17.5% (Malta)	17.5%
5	3.1629 204 <u>8</u>	3.1629 2057	3.1629 2056 8835
10	4.5751 <u>234</u>	4.5751 2950	4.5751 2949 5837
15	5.205 <u>4</u> <u>9</u>	5.2056 6511	5.2056 6510 6866
$n \backslash i$	20.0%	20.0% (Gushee)	20.0%
5	2.9906 <u>1197</u> <u>9</u>	2.9906 1213 99	2.9906 1213 9918
10	4.1924 <u>7202</u> <u>08</u>	4.1924 7208 56	4.1924 7208 5551
15	4.6754 <u>7261</u> <u>6</u>	4.6754 7264 24	4.6754 7264 2406



$$\frac{1}{2} \cdot a_{2n|j}$$

表別	本 表	他 表	検 算
$n \backslash j$	7.5%	7.5% (Gushee)	7.5%
5	4.1064 <u>4</u>	4.1063 9362 6	4.1063 9362 5840
10	6.9481 <u>65</u>	6.9481 0210 6	6.9481 0210 5905
15	8.9146 <u>6573</u>	8.9146 2256 7	8.9146 2256 6792
$n \backslash j$	17.5%	17.5% (Malta)	17.5%
5	3.2439 <u>5177</u>	3.2444 430	3.2444 4301 2186
10	4.6465 <u>517</u>	4.6467 642	4.6467 6419 3991
15	5.2527 <u>8683</u>	5.2528 789	5.2528 7892 2945
$n \backslash j$	20.0%	20.0% (Gushee)	20.0%
5	3.0722 8354 <u>5</u>	3.0722 8355 3	3.0722 8355 2852
10	4.2567 8185 <u>7</u>	4.2567 8186 0	4.2567 8185 9879
15	4.7134 5723 <u>2</u>	4.7134 5723 <u>4</u>	4.7134 5723 3494

注. アンダーラインは、誤りを示す。

1. 金15両年利1割にして10か年賦借用。此返金1か年に何程宛と問。 答 146匁4分6厘。

$$\frac{60 \times 15}{a_{\overline{10}|10\%}} = \frac{900}{6.1445671057} = 146.471$$

答は銀いくらと問うているものと思われる。 金1両=銀60匁 として解答すると、答に小差あり。

2. 前問を半年毎に何程宛と問。年利1割は年兩度に計算する。〔筆者の追加問題〕 答 銀 72匁2分2厘。

$$\frac{60 \times 15}{\frac{1}{2} \cdot a_{\overline{20}|5\%}} = \frac{900}{6.23110517 \text{ [誤り訂正]}} = 144.437$$

$$144.437 \div 2 = 72.22$$

「納崩算法記・貸附米銀利足算」の内容は、次のようである。

表 別	$i$ % (刻み)	$n$ (刻み)	桁 数 (小数)
$a_{\overline{n} }$	3(1)10	1(1)30	8
$(a_{\overline{n} })^{-1}$	3(1)10	1(1)30	8
$(1+i)^n$	3(1)10	1(1)20	8

本表では、朱を分の位として用いている。その一部を検算と共に示すと、次のようである。

表別		本 表	Gushee 表	検 算
$a_{\bar{n} }$	$n \backslash i$	5 %	5 %	5 %
	10	7.7217 349 <u>2</u>	7.7217 3493 92	7.7217 3492 92
	20	12.4622 1034	12.4622 1034 25	12.4622 1034 25
	$n \backslash i$	8 %	8 %	8 %
	10	6.7100 813 <u>9</u>	6.7100 8139 89	6.7100 8139 89
	20	9.8181 474 <u>0</u>	9.8181 4740 74	9.8181 4740 74
$(a_{\bar{n} })^{-1}$	$n \backslash i$	5 %	5 %	5 %
	10	0.1295 0457	0.1295 0457 50	0.1295 0457 50
	20	0.0802 425 <u>8</u>	0.0802 4258 72	0.0802 4258 72
	$n \backslash i$	8 %	8 %	8 %
	10	0.1490 294 <u>8</u>	0.1490 2948 87	0.1490 2948 87
	20	0.1018 522 <u>0</u>	0.1018 5220 88	0.1018 5220 88
$(1+i)^n$	$n \backslash i$	5 %	5 %	5 %
	10	1.6288 946 <u>2</u>	1.6288 9462 68	1.6288 9462 68
	20	2.6532 977 <u>0</u>	2.6532 9770 51	2.6532 9770 51
	$n \backslash i$	8 %	8 %	8 %
	10	2.1589 249 <u>9</u>	2.1589 2499 73	2.1589 2499 73
	20	4.6609 5714	4.6609 5714 38	4.6609 5714 38

注. 末位がすべて切捨となっている。アンダーラインは、誤りを示す。

## あ と が き

西歴1850年代既にわが国に、福田理軒の「利息捷表」があったことを知り、実に驚嘆した次第であって、当時の経済の進歩も忍ばれるのである。「算法利足速成」の欠本の入手を強く希望するものである。

同時代海外には、これ程の金利計算表 ( $a_n$  表に限ってはあつたが) は、なかつたように推定される<sup>9)</sup>。

なお、次の利息算の書籍が、江戸時代に存在していたようであつて、是非一見の機会を得られんことを希望して筆をおくことにしたい。

剣持 章行：算法利息全書 (1790—1871)	安政 4 年 (1857年) <sup>10)</sup>	
著者不詳：成崩利足算	古川家蔵本	} 狩野文庫
石黒 信由 <sup>11)</sup> ：年賦利足算 (1760—1836)	文化元年 (1804年)	
海野 貞紀：月賦金通術	文政 5 年 (1822年)	東大所蔵

注：

- 1) 拙稿：和算における利息算 城西大学経済学部紀要 第1号
- 2) 林 鶴一：和算研究集録 書名索引に記載はない。
- 3) 同 上：和算研究集録 下巻 p. 329 に、門弟岩田清康の名を以て、「算法利足速成」四編各二巻（8冊本）を1855年刊行とある。私蔵本は1856年刊行であつて、4冊本のようにも感ぜられる。書中に「算法利足速成」とも書かれている。なお、巻之四の末尾「福田派算書既行目録」には、自初編至三編各二巻とある。
- 4) 注2の書名索引には、記載はない。
- 5) 和本は袋紙でその1枚ごとに丁数を付けていた。従つて現代風にいえば、1丁が2ページである。
- 6) A. Malta: Nouvelles Tables Financières II 1965. (I, II 合本で、1974出版)
- 7) C. H. Gushee: Financial Compound Interest and Annuity Tables 5th. ed. enlarged, 2nd printing 1976 (初版1942).
- 8) 「算法利足速成」巻之一 凡例による。朱は歩と同一単位として用いることもある。(注1の論文第3節参照) 本稿 第6節 参照。
- 9) Cf. C. Attwood: Compound Interest Functions pp. 210—216.
- 10) 注2) 書名索引に記載あり。剣持章行には著書多数あり。
- 11) 注2) 書名索引に記載はない。しかし、石黒信由には著書多数あり。

「成崩利足算」および「月賦金通術」は、書名索引に記載はない。なお、海野貞紀は人名索引にも記載はない。

(昭和53. 10. 10稿)